

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	B型通園事業(重症心身障害児者通園事業)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	保健福祉部	課等名	福祉課		包含する細々目	1	3	2	4	14	1	10,703	
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり												
施策	34 障害者福祉の推進												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要	関連計画 条例等						
		事業期間	15	年度～	年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	重症心身障害児(者)とその保護者	飯田下伊那の在宅重症心身障害児(者)数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			41	41		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
家庭外での活動の場を広げ、発達の支援をする	通園して訓練を受けた障害児(者)の数	18目標	16	最終目標		
		18実績	24	19目標	24	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度
	一日あたりの平均利用者人数	18目標	5	最終目標		
		18実績	5.2	19目標	5	↑
		23目標	5	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・身近な所で家庭外の日中活動の場が得られるよう、療育センターひまわりの事業内容を地域の人達に知ってもらえるようにする。 ・重症心身障害児(者)や保護者が希望する日にできる限り通所できるよう、体制を整える。 ・楽しみを見つけられるような多様なメニューを準備する。(生活リズムづくり、摂食、散歩、感覚あそび他)	18年度の実績 ・訓練 ・あそびを通じた楽しみ作り ・食べることの楽しみ作り ・健康管理 ・療育相談	一日あたりの平均利用者数(人)	5.2
	19年度計画 ・訓練 ・あそびを通じた楽しみ作り ・食べることの楽しみ作り ・健康管理 ・療育相談	一日あたりの平均利用者数(人)	5	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	国庫支出金		
	特定 県支出金	9,120	9,821
	起債		
	その他	1,111	882
	一般財源		
事業費計(A)		10,231	10,703
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,000	19年度 2,000
	臨時職員等所要時間	2,000	2,000
	人件費計(B)	9,302	9,302
	トータルコストA+B	19,533	20,005

特定財源内訳や補足事項	重症心身障害児(者)通園事業県委託金 国 1/2 ・ 県 1/2
-------------	-------------------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	支援を必要とする障害者及びその世帯が療育を受けられる	療育を受けられる数(重心登録児(者)数)	現状値	16	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	16
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ ・重症心身障害児が増える中、県から受託事業として実施できる見込みができた。	事業を取り巻く状況の変化 ・平成14年4月、単独事業として実施 ・平成15年1月～県の委託事業として実施	事業に対する市民や議会の意見 飯田養護学校高等部卒業後の日中活動の場の拡大
--	--	--

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 重症心身障害児や保護者が、健康管理をうけながら、遊びを通して動きやすい体作りや、人とのふれ合いの仕方を学び、たのしみを見つける場となっている。	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 概ね、目標は達成されているが、利用者の受け入れは、まだ幾分可能。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 飯伊の重症心身障害児(者)とその保護者であるため必要性がない。	廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 重症心身障害児や保護者が各家庭外で過ごす機会が激減する。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 動きやすい体を作るため必要性がない。	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) なし
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 経営コスト面からも民間では困難な重症心身障害児(者)の日中活動の場の確保のため、市が関与する必要がある。	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) なし
	効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 利用者の一人一人に人の手が必要で、削減は容易ではない。	
	公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者：重症心身障害児と保護者 負担：1日 500円 程度：妥当	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 <input type="text"/> 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 家庭の中にもりがちな在宅重症心身障害児(者)への日中活動の場への誘い
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	飯田養護学校高等部卒業生の受け入れが始まった。年齢相応の活動場所の確保と支援方法を工夫していく必要がある。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	